AFFILIATED WITH THE INTERNATIONAL ASSOCIATION OF Y'S MEN'S CLUBS
THE SERVICE CLUB TO THE Y.M.C.A.

THE Y'S MEN'S CLUB OF YOKOHAMA

BULLETIN

2021 - 3 - 855号

C/O YOKOHAMA YMCA
1-7 TOKIWACHO, NAKAKU, YOKOHAMA, JAPAN.
TEL (045) 662-3721 〒231-8459

CHARTERED, 1930 12. 13

国　際　会　長　（ＩＰ）　Jacob Kristensen　（デンマーク）
“TRUST　IN　THE　RIVER　OF　LIFE”
「命の川を信じよう」

アジア太平洋地域会長（ＡＰ）David Lua（シンガポール）
“Make a difference”　「変化をもたらそう」

東日本区理事（ＲＤ）　板村　哲也（東京武蔵野多摩）
「変化を楽しもう」
“Let’s enjoy ‘Changes’”

湘南・沖縄部部長（ＤＧ）古田　和彦（横浜）
「クラブを超えてワイズ間の交流を図り、共にYMCAに仕えよう」

横浜クラブ会長　（ＣＰ）　古賀 健一郎
「クラブ創立90周年の恵みの中、ＹＭＣＡと共に未来を開く」
“Blessing of club 90th anniversary、 open the future with YMCA”

会　長　　古賀　健一郎
副会長　　古田　和彦
書　記　　古賀　健一郎
会　計　　大髙　治
直前会長　古田　和彦

監　事　　松島　美一
ブリテン　伊藤　誠彦
担当主事　奥薗　一紀

＜今月の聖句＞

佐竹 博

近いうちにお目にかかって親しく話し合いたいものです。
あなたに平和があるように。

（ヨハネの手紙Ⅲ　14節－15節）

今月のひとこと

『災害被災者支援 YMCA の働き』

古田 和彦

10年前、2011年3月11日午後2時46分に発生した東日本大震災、これによる被害には過去に例を見ない原子力発電所事故による災害も含まれ、過去のどの災害よりも重いものとして今日まで多くの方々を苦しめている。このブリテンが発行されるのは当クラブ3月第1例会だろうから、まさに被災10年目の日2021年3月11日になるだろう。

被災10年にあたり、新聞・テレビなどで連日報道がなされ、その一つ一つに痛みと共に自然の大きな力、人間の愚かさを覚えずにはいられない。この時に当り、改めて、YMCAが災害支援に果たしてきた働きを振り返ってみたい。

おりしも、当クラブは昨年12月、クラブ創立90周年を迎えたが、クラブの歴史を振り返る卓話を3回にわたり続け、歴史を通してクラブの働きを振り返ることができた。その延長として、YMCAの災害支援の歴史を振り返ってみたいのである。

まず、関東大震災の時である。「横浜YMCA百年史」から一部抜粋する。

1923年9月1日11時58分、マグニチュード7.9の地震は東京・横浜に壊滅的な打撃を与えた。京浜地帯を中心とした多数の罹災者の救護に YMCA は全国で協力して立ち上がった。東京、大阪、名古屋の各YMCAが直ちに横浜に救護に駆け付けた。救護事業で直ちに開始したのは罹災者に対する飲料水給与、道案内、休憩場所の提供、郵便葉書の分与、郵便差出の取り扱い、代書、シャベル・リヤカー・荷車の貸し出し、散髪の実施、迷子行方不明者の調査、所有品一時預かり、各種相談が主なるものであった。報告によると、9月18、19、20、21日の4日間に飲料水を供給した人数は1、437名、郵便差出取扱数494通、休憩場所を与えた者233名に達した。

1959年9月26日に紀伊半島南端に上陸した伊勢湾台風時には、名古屋YMCAを中心に支援活動が行われた。大阪、京都、神戸のYMCA（ワイズメン含む）が直ちに救援に駆け付け、献身的に復興に尽力した。その働きの一端を、支援を受けた方からの感謝の手紙によって紹介する。「『YMCA』名前は耳にしていても、ただキリスト教徒の奉仕的な集まりと、災害以前までは少なくともそう思っていました。・・・あの歴史的な災害時にいち早く救援の手を差し伸べてくださったのが YMCA でした。自分だけの事しか考えていない土壇場に陥った醜い人間性をむき出しの場面のみ見ていた時に、救援物資或いは職員を、病人をと懸命な働きぶりを見た時、誰しも神に出会ったかのように感激の気持ちでいっぱいでした。水が引き始め、ヘドロの悪臭で頭がふらつかんばかりの時に、我先にとヘドロ運びをかって出て、とばっちりのかかった顔

＜2021年2月例会実績＞

在籍者	出席者	出席率	B　F
１１名	メン　9名 メネット　0 名 コメット　0名 ビジター　名 ゲスト　名 **合計　9名**	82 % （メーキャップ名を含む） 前月修正 出席率　%	今月分 切手　0ｇ 現金　0円 年度累計 切手　0ｇ 現金　0円

＜3月の行事予定＞

EMC／E　YES

日	曜	時間	行事内容	場所
6	木		次期役員・部役員研修会	Zoom
11	木	18:30	横浜クラブ第一例会	Zoom
25	木	17:00	横浜クラブ第二例会	Zoom

を拭こうともせず、全身全霊を尽くしての働きぶりは普通の人間沙汰ではない。その姿に職員一同、否その場面を見た人は、ただ目を見張るのみでした。我々に復興の勇気を沸き立たせてくださったのは YMCA の方々のお陰だと信じています。」

この伝統は、その後の阪神・淡路大震災、東日本大震災、熊本地震それ以降へと引き継がれている。日本の YMCA が一致協力し、ボランティアを組織し、被災者に寄り添う、その伝統を大切に引き継いでいきたい。私たち YMCA の一員でもあるワイズメンも、その支援活動の一端を担い続ける者でありたいと改めて願うのである。

「2月第一例会報告」

齋藤 宙也

日時：2 月 11 日(木)12：30～13：20
場所：Zoom によるオンライン会議
出席者：伊藤、奥園、大髙、古賀、齋藤、佐竹、田口、古田、松島

建国記念の日という祝日をいわば逆手に取って、横浜Ｙが平和を考えるつどいとして始めた会員大会。大会は、2 本の素晴らしい講演があり成功裏に終わったと思われる。会員大会終了後、引き続いて 2 月の例会をオンラインで開催した。

古賀会長の司会のもと、久しぶりに、ワイズソングの 1 番及びワイズの信条を唱和することができた。

卓話はなく、直ちにビジネスに入った。行事予定を確認し、90 周年記念式典を無念ながら中止することとした。熊本スピリットクラブとの DBC 締結も、一堂に会することができる時まで延期することになった。

続いて、古賀会長から、EMC セミナー及び 3 月の例会の卓話についての説明があった。次に、ブリテンの編集計画の説明や、今後のブリテンの在り方について意見交換がなされた。そして、大髙ワイズから、東日本区区費・諸献金に関する会計報告がなされた。

最後に、次年度クラブ役員・事業委員の人事案が承認された。どうしても、人数が減ってしまい、Y 職員を除くともっと実働者は限られるため、兼任も多い。どうにか人事としては成立したものの、改めて、会員増強の必要性を痛感することになった。そこで、しばらくの間、会員増強について意見交換を行ってから例会を終えることとした。

若手もさることながら、女性会員も重要である。過去の記録を見る限り、１０年以上在籍がないように見える。女性１人だけでは居心地も悪いであろうが、女性が一番女性を呼んできやすいとも言われている（ロータリークラブの場合）。したがって、もし入会可能性のある方がいらっしゃるのであれば、少しずつでも勧誘に着手したいところである。

「横浜YMCA会員大会報告」

古田和彦

2 月 11 日（木・休）午前 10 時から 12 時過ぎまで、横浜 YMCA 会員大会がオンラインピースフォーラムとして開催された。世間ではこの日を祝日（建国記念の日）としているが、キリスト者のみならず、ほかの宗教者たちもこの日が戦前の軍国主義体制の基となり、侵略戦争の精神的基盤となっていたことから祝日とは捉えず、平和で共に歩む社会の建設のために学び合う日としている。横浜 YMCA でもこの日が定められた年から毎年、休日ととらえず、学び・交わりの日としてきた。近年は会員大会との名称の下、維持会員相互の親睦・交流・学びの機会とし、また、YMCA 活動やボランティア活動を知らせる機会にもなっている。学びの主な内容は、世界に目を向け、国際、多文化共生、人権、平和について考えることを行ってきた。今年は、新型コロナ感染症拡大防止のため、例年のように共に集まって話し合い、学び合うことは見合わせ、初めての試みとしてオンラインによる講演会となった。

10 時、1 階ホールで開会礼拝。開会のあいさつを工藤誠一横浜 YMCA 理事長が行い、続いて、2 つの講演があった。第 1 は、「横浜大空襲下の軍国少女」と題して、横浜大空襲の語り部である、中島知子氏の講演であった。1945 年、15 歳の彼女は、神奈川区にて被災。横浜大空襲は東京などと違い、昼間だったため、亡くなっている人があちこちに転がっているのがはっきりと見える中、それらの人をまたいで避難したことなど、今年 90 歳の年齢を感じさせないはっきりとした口調で、いかに戦争が悲惨なものであるかご自身の体験を通して語られた。第 2 は、「折れない心を育てるいのちの授業」であった。講師は医師である「めぐみ在宅クリニック」院長の小澤竹俊氏。ご自身の医師を目指した動機、世の中で一番苦しんでいる人のために働きたいとの思いとその思いを実現するための努力、その経験から、折れない心を育てる働きについて語られた。

講演の後、短い時間であったが、質疑応答、分かち合いの時を持ち、最後に、佐竹横浜 YMCA 総主事の閉会の挨拶で 12：15 分予定通り終了した。良い学びの時を持つことができ感謝でした。出席者：伊藤、大髙、古賀、佐竹、古田

『東新部 EMC セミナー報告』

古賀 健一郎

開催日時：2021 年 2 月 20 日(土)　13：30－15：30

開催形式：Zoom を利用してオンラインで開催
参加者：45 名。湘南・沖縄部よりは、大髙、古賀、古田(以上、横浜)の他、辻エクステンション委員会委員長が出席

(1) セミナーの開催目的は「ワイズメンズクラブをより魅力的にするために」そしてその結果「私たちの仲間を増やすために」に繋げたい。

(2) 発題Ⅰ：石田孝次ワイズ（区 Change! 2022 推進委員、東京多摩みなみ）

『ワイズメンズクラブをより魅力的にするために、ワイズの問題構造と解決のためのフレームワーク』

Y's クラブは、どのクラブもコロナ禍の影響で活動が停止を余儀なくされ、加えて、高齢化が進み、会員数の減少傾向が止まらない。活動量の減少＝魅力度の低下＝会員数の減少＝クラブ役員の負担感の増加＝活動量の減少に拍車という「負の連鎖」が始まっている。クラブが「元気」を取り戻す。即ち「活動量」を増やすには、クラブ単位の活動ユニットへの関与者の数を増やし、「活動の輪」作り（神輿の担ぎ手を増やすということ）が必要。クラブ同士の連携、相互乗り入れ、統合化が現実的で実行可能な解決への道と考え、「クラブの統合化」を提言したい。

(3) 発題Ⅱ：伊藤幾夫ワイズ（区 EMC 事業主任、東新部 LT 委員、東京多摩みなみ）

『「Change! 2022」なぜ会員増強なのか！』

コロナ禍での会員増強は苦戦を強いられている。このような状況は、Change! 2022 最終年まで続くことも考える。「なぜ会員増強を目指すのか」をワイズの現状をレビュー。

① ワイズの現状―東日本区の 70 歳以上は 46.7%（東新部の場合は 63%）。現状のままで行くと、10 年後は『ワイズの存亡の危機』もありうる厳しい現状を皆で共有して欲しい。

② 一方で、会長ヒアリング回答で次のような視点も見て取れる。「会員増強が必要」は理解するが、ただ会員増強をすればいいのか？会員が増えない(減る)のは、もっと根本的な問題があるのではないか？

③ 今回の会長ヒアリングで出された「2022 年までのクラブ会員目標」は、コロナ禍でクラブ活動が停滞（中断）していることもあろうが、昨年 7 月に出された数値よりかなり厳しいものとなっている。

お二人の発題者の方から、“ワイズの厳しい現状と論理的な分析に従ってのご提言”に心から感謝申し上げたい。自クラブ（横浜クラブ）、所属部（湘南・沖縄）での、今後の発展に向けて貴重な参考にしたい。そして私たちも、皆で協力し合って、この厳しい現状を打破していきた

『近況：：一人称の幸せには限界がある』

古賀 健一郎

2 月 11 日開催の横浜 YMCA 会員大会での特別講演の一つ、小澤竹俊医師が、コロナ禍においてあらためて考える「命（いのち）の大切さ」について、「折れない心を育てる いのちの授業」と題して語られた講演に大変感銘を受けた。ホスピス病棟での勤務経験とそこでの看取りの視点からの先生のお話。冒頭に「一人称の幸せには限界がある」の言葉が述べられるとすぐに、先生のお話に聞き入ってしまった。偶然にも、たまたま、昔読んだ山本周五郎の「柳橋物語」を最近読み返した時でもあり、その読後感とも相まって、小澤先生のお言葉が強く私の心に響いた。

「自分がいることで他の誰かが喜んでくれたならば、その人の喜びをもって自分の幸せとしたい」……。「人はちっぽけです。とても弱いです。ところがその人を心から認めてくれる“誰かとのつながり”がしっかりと描けると、とても強くなる。病気でも頑張れたのは、“家族”がいたから。家族がいなくても、“友人”がいる、“ペット”であったり、あるいは人を支える“信仰”であったり、たとえ死の淵を歩いても私は恐れない。それはまさに“温かいつながり”が、“信頼できる支え”があるからだ」……。「空が暗い時に限って、たくさんの星に気がつくものだ。辛いから、苦しいそんな時にこそ、そこで大事なものに気がついていく……。」

ある終末期の患者さんの詩を先生は紹介された。その方の約 50 年の人生は、本当にいろいろなことがあった。在宅で緩和ケアを必要とする状況となりご自宅へ伺った。「私には伝える相手がいない…」と話された。そして、この世から静かに消えたいとの思いも打ち明けられた。ご本人の深い悲しみと苦しみが伝わってきた。先生は一つだけ彼女にお願いした。「この病気になって気づいたこと、学んだことを、これから社会に出て行く子どもたちの為に何か伝えていただけませんか」……。彼女は「他の誰かの役に立てるならば」と、一晩かけて詩を書いて下さった。この詩を、ペンネーム Nana としてここに紹介する。

題：「病がくれた勇気／カラー」（Nana）

「苦しみは、一人で頑張らなければいけないと思い込んでいた。私の目に映る景色はモノクロだった。でも、ある日、ほんの少しの“勇気という一歩”を踏み出すことで、温かな手を差しのべてくれる人たちがこんなにも沢山いることに気がついた。その瞬間、私の目に映る景色に色がついた。私が、あなたが生きているこの世界は、明るく、温かく、無限に優しい。だから、一人で頑張らないで。声にだして仲間を呼ぼう。ほんの少しの勇気をだして。この世界が七色に輝きだすから。Nana」……。

この詩は SNS で大きな反響を呼び、全国の多くの人から「いいね」のメッセージが届いた。こうして彼女は変わっていった。この詩が誰かの役に立ったというより、たとえこんな自分でも自分のことを認めてくれる多くの人がいる。この温かい世界の素晴らしさを彼女は実感された。そして彼女は、この世界がまさに色がついたように生き生きとした気持ちとなって、天国に旅立たれたそうです……。

（追記）『柳橋物語』（簡単な紹介）

江戸下町、幾多の災害と苦難、人の世の冷たさ温かさを感じながら、ひたむきに生きる女性の生き様を描いた山本周五郎の小説。「主人公（おせん）が江戸の大火や大切な人との別れなど幾多の困難に見舞われるも、懸命に生きる姿が描かれる。記憶喪失になるほど衝撃をうけながらも、その時拾った赤子を育てようとする……。本当に人を生かすものは。名誉だの地位だの財産ではなくて、お互いの生死を腕の中でつかみ、抱き合っている生活の中に本当の生き方というものがある。登場人物のいろいろな命の流れを、この赤子の中に経験

しながら、主人公(おせん)は充実してこの貧しさの中に徹していこうとする。

＋＋＋＋＋＋＋最後に。

現代の今のコロナの時代で先が見えない混乱した状況の中で、『自分にあるものを分かち合って共に生きる』ことこそが、今ほど大切な時はない。ニューヨーク州のクオモ知事はある日の会見で、カンザス州に住む夫婦からの手紙を読み上げた。知事宛の荷物には 1 枚の N95 マスクが同封されていたという。「私は、カンザス州北東部に住む引退した農家です。妻は肺が片方しかなく、残りの方にも時々問題を抱えている。妻はまた糖尿病も患っている。私たちは 70 代で、正直妻のことが心配です。唯一残った N95 マスクを同封しました。未使用のものです。どうかあなたの街の看護師や医師にお渡しください。身近な家族のために 4 枚を取っておきます。どうかこのまま頑張ってください」……と。世界中の人みんながこうしたことをすれば、この世界は救われる！先ずは、『他者との温かい連帯・つながり』を、私共ワイズの絆からさらに広げていきたい。

第二例会報告

大髙 治

日　時：2 月 25 日(木)16：30～18：00（Zoom 例会）
出席者：伊藤、大髙、古賀、齋藤、古田、
行事予定の確認
・3 月末までの予定を確認。3 月 2 日(火)の第 90 回 Y－Y’s 協議会は中止。
・YMCA のオープンは 3 月 9 日以降か。
協議・報告事項
(1)「横浜クラブのあらまほしき姿」
2018 年 5 月クラブ 1 泊研修会での掲題の議論に加え、その後もクラブ員に意見を求めてきたが、会員は多様な価値観、行動規範を持っている限り、全員一致の横浜クラブのあるべき姿を描くことは困難であろう。しかし、クラブとして目指すべき大きな方向性は欲しい。それは我々の行動から見出し、それが会員の増加につながるようにしたい。
・例会での卓話の充実と親睦
・会員が生き生きと活動している雰囲気が外からも見えるような共通のテーマが欲しい。
例えば、横浜クラブと横浜 YMCA の共催での『日本語スピーチコンテスト』を 7 年間の実績を踏まえ、留学生の日常生活のサポート奉仕は一案であろう。(言葉、文章作成支援、ホストファミリーなど……)
・会員増強のための情報の充実、施策の検討。
Home Page の更新と追加事項の確認
広報・宣伝活動の検討
・掲題の具体案について、次回の第二例会の打ち合わせに継続したい。
(2) 3 月度クラブ第一例会と卓話者
・Zoom での開催を予定。
・「絵本の楽しさ」をテーマに佐藤茂美ワイズ（東京クラブ）と千葉裕子ワイズ（鎌倉クラブ）のお二人に卓話者としてお話していただく。
(3) 4 月以降の第一例会と卓話者
・『日本語スピーチコンテスト』の例年審査委員長を務められておられる、恵泉女学園名誉教授の秋元先生にお願いしたく、ご都合をお伺いしてみる。
(4) 90 周年記念誌配布作業；伊藤さん、奥薗さんの尽力によりほぼ完了。

YMCA だより

担当主事　奥薗 一紀

● 会員大会(オンラインピースフォーラム)実施報告

2 月 11 日(木)に実施されました、会員大会(オンラインピースフォーラム)についてご報告いたします。今年度の会員大会は、新型コロナウィルスの感染拡大防止のために、オンライン形式で実施し、特別講演と分かち合いの時がもたれました。

特別講演は『横浜大空襲下の軍国少女』と題し、横浜大空襲の語り部である中島知子先生、『折れない心を育てるいのちの授業』と題し、横浜市瀬谷区の在宅療養支援診療所めぐみ在宅クリニック院長の小澤竹敏先生がそれぞれご講演くださいました。その後、Zoom を活用した質疑応答と、分かち合いの時をもちました。

ほぼ例年通りの 304 人の参加者数でしたが、1 台のパソコンで複数人が視聴するブランチなども見受けられましたので、実際には更に参加者は多かったと思われます。

3 月例会プログラム

日時：3 月 11 日（木）18:30～20:15
場所：Zoom 開催
司会：伊藤ワイズ
1. 開会点鐘及び挨拶　・・・・・・・・・・・ 古賀会長
★(10 年経った)東日本大震災の犠牲者の方へ黙祷
2. ワイズソング・ワイズの信条　・・・・ 全員
3. 今月の聖句　・・・・・・・・・・・・・ 佐竹ワイズ
4. 卓話　「絵本の楽しさ」
佐藤茂美ワイズ、千葉裕子ワイズ
4. ビジネス・報告　・・・・・・・・・・・ 古賀会長
5. Happy Birthday　遠藤三起子、古賀智子、佐竹順子
6. 閉会点鐘　・・・・・・・・・・・・・・ 古賀会長
例会報告：伊藤ワイズ

4 月の行事

日	曜	時間	行事内容	場所
8	木	18:30	横浜クラブ第一例会	未定
17	土		第 3 回部評議会	未定
22	木	17:00	横浜クラブ第二例会	未定

当ブリテン及び横浜ワイズメンズクラブに関するお問い合わせは、YMCA奥薗一紀にご連絡下さい。
メール　okuzono_kazuyoshi@yokohamaymca.org
電話　045-661-0080